

## Na 温度ライダーによって日本で観測された MLT 領域の Na 密度・温度の季節変化

## Seasonal variations of Na density and MLT temperature observed by Na temperature lidar in Japan

# 江尻 省 [1]; 中村 卓司 [2]; 川原 琢也 [3]

# Mitsumu Ejiri[1]; Takuji Nakamura[2]; Takuya Kawahara[3]

[1] 極地研; [2] 京大・生存研; [3] 信州大・工

[1] NIPR; [2] RISH, Kyoto Univ.; [3] Faculty of Eng., Shinshu Univ.

近年、中間圏・下部熱圏 (MLT) 領域を境界とする大気圏・電離圏の全球的な観測研究が進み、MLT 領域での大気波動の活動度や大気の安定性などについて、緯度差のみならず経度差の重要性が再確認されている。京都大学生存圏研究所では、MLT 領域を総合的に観測するために様々な測器が設置されている信楽 MU 観測所から東に約 25 km に位置する宇治キャンパス内 (34.9°N, 135.8°E) に、2005 年に Na 温度ライダー (信州大学) を設置した。2007 年 8 月からは毎月数日以上の Na 温度ライダーによる準定常観測を行っており、2009 年 1 月現在までに約 140 晩 (1000 時間以上) の観測データを得た。本研究では、この約 1 年半の観測によって明らかになった、日本上空の中間圏界面付近の温度と Na 密度の鉛直分布の季節変化を報告する。